

2026年1月19日

## 世界の人びとのための J I C A 基金活用事業 終了時活動報告書（2024 年度採択案件）

1. 業務の概要	
(1) 案件名	外国人児童と接する教育関係者に対するセミナーの実施
(2) 実施団体名	特定非営利活動法人共に暮らす
(3) 実施期間	2025 年 1 月 23 日～2025 年 12 月 22 日
(4) 実施国	日本
(5) 活動地域	群馬県
<p>(6) 活動概要</p> <p>①活動の背景：</p> <p>群馬県内では外国にルーツを持つ子どもたちが年々増加しており、伊勢崎市をはじめとする地域では、学校現場で多文化・多言語環境への対応が日常的な課題となっています。一方で、外国人児童は言語や文化の違いから授業理解や進路選択に困難を抱えやすく、高校進学率の低さや中途退学率の高さといった課題も指摘されています。こうした状況の中、教員や支援者が外国にルーツを持つ子どもたちの背景を理解し、長期的な視点で支援できる体制づくりが求められています。</p> <p>②活動の目標：</p> <p>本事業は、外国にルーツを持つ子どもたちが安心して学び、将来の進路を主体的に選択できる環境を整えるため、教育現場で子どもと日常的に関わる教員や支援者の理解と実践力を高めることを目的として実施しました。外国人児童が直面している課題は、語学力や学力の問題だけでなく、文化的背景の違いや家庭環境、進路情報へのアクセスの差など、複合的な要因が絡み合っています。そのため、個々の子どもへの支援だけでなく、支援する側がその背景を正しく理解し、長期的な視点で関わることが重要です。本セミナーでは、「生活言語と学習言語の違い」「母語支援の重要性」「文化的背景と学校のルール」「支援者自身の異文化適応力」といったテーマを通じて、外国にルーツを持つ子どもたちを取り巻く現状を多角的に学ぶ機会を提供しました。明確な答えや即効性のある方法を示すのではなく、参加者一人ひとりが現場で感じている違和感や課題を言語化し、今後の支援に生かせる視点を持ち帰ることを重視しています。本事業を通じて、教育関係者同士の学び合いとつながりを生み出し、学校・家庭・地域が連携しながら、外国にルーツを持つ子どもたちの学びと将来を支える基盤づくりを目指しました。</p>	

## 2. 業務実施結果

### (1) 実施した内容

本事業では、外国籍児童・生徒と接する教育関係者および支援者を対象に、全3回の連続セミナーを実施した。第1回では「生活言語と学習言語」をテーマに、言語習得の特性や母語支援の重要性について学んだ。第2回では「文化的背景と社会ルール」を取り上げ、文化の違いから生じる誤解や学校現場での配慮について対話的に考える機会を設けた。第3回では「異文化適応力の向上」をテーマに、学校だけでなく地域全体で多文化共生を進める視点や実践事例を共有した。各回とも講義と意見交換を組み合わせ、参加者が現場の課題を持ち帰り、今後の実践につなげる内容とした。

### (2) 実施成果

外国にルーツを持つ子どもたちが直面している言語的・文化的課題について、教育関係者や支援者が体系的に理解を深める機会を提供することができた。特に、生活言語と学習言語の違いや母語支援の重要性、文化的背景の違いから生じる誤解への気づきなど、日常の教育実践に直結する視点が参加者の間で共有された。また、講義とグループワークを通じて、参加者同士が現場の悩みや工夫を共有し、孤立しがちな支援者同士のつながりが生まれたことも大きな成果である。アンケートや意見交換では、「自分の関わり方を見直すきっかけになった」「長期的な視点で支援を考える必要性を実感した」といった声が多く寄せられ、今後の教育・支援実践の質向上につながる成果が確認された。

### (3) 得られた教訓など

参加者の多くが、「日常会話ができる＝学習も理解できる」という思い込みや、語学力と学力、文化的背景、家庭環境を十分に切り分けて考えられていなかったことに気づいたと述べている。また、母語支援やアイデンティティへの配慮、ことばのヤングケアラーへの対応など、学校単独では対応しきれない課題が多く存在し、外部支援や地域、行政との連携の重要性が共有された。さらに、明確な正解や即効性のある対応策を求める声が多い一方で、「モヤモヤを抱え続けること」「問いを持ち続けること」自体が多文化共生の実践において重要であるという共通理解が参加者の間で形成されたことは、本事業の大きな学びであった。

### (4) 今後の活動・フォローアップの方針

今後は、本セミナーで得られた学びや課題意識を各現場での実践につなげるとともに、教育関係者同士が継続的に情報交換できる場づくりを進めていく。あわせて、外国にルーツを持つ子どもたちへの支援が学校だけに依存しないよう、外部支援機関や地域、行政との連携を強化し、長期的な視点で支援体制の充実を図っていく。

### 3. その他(エピソード・感想・写真など)

#### (1) 活動中のエピソード・感想など

セミナーでは、参加者から日頃の悩みや迷いが率直に共有され、「同じように悩んでいるのは自分だけではなかった」という声が多く聞かれた。講義やグループワークを通じて、現場で感じていた違和感が言語化され、参加者同士が共感し合う場面が印象的であった。対話を重ねる中で、新たな視点や気づきを持ち帰る機会となった。

#### (2) 活動の写真



① 教育関係者の皆さんが意見交換をしてる様子    ② ハイブリッド開催のためオンラインの質問受けてる様子



8月2日の山田先生による講演 ←



← 3回のセミナーで講演後のグループワーク

#### (3) JICA 基金活用事業を実施したことで団体の成長につながった点・良かった点

本事業を通じて、団体として外国にルーツを持つ子どもたちの課題を、教育・地域・行政の視点から体系的に整理し、発信する力が高まった。また、教育関係者や支援者との新たなネットワークが広がり、現場の声を継続的に共有できる関係性を構築できたことは、今後の事業展開において大きな成果である。